

- 2面 長崎港で内航タンカーを見学〈大阪〉
3面 第15回就職支援検討委員会
〈九州関門〉
4面 小樽地区漁船組合員大会〈北海道〉

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <https://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行第3123号(昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2026年(令和8年)
7月15日
本紙は毎月5・15・25日発行
〒106-0032 東京都港区
六本木7丁目15番26号
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-6910-5339
定価1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

無人運航船プロジェクト・MEGURI2040

国土交通省と海員組合が合同で視察

機関部実証実験で船陸間の役割・作業を検証

6月16日、本組合の田中伸一組合長代行をはじめとする執行部7人が、国土交通省と合同で兵庫県西宮市の古野電気株式会社本社にある陸上支援センターを訪れ、自動運航船の機関部実証実験を視察した。
2020年2月から推進している無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」の複数船舶を遠隔で航行支援する「陸上支援センター」が、一昨年7月に世界で初めて古野電気本社内に構築され、船舶の事故防止、海運業の担い手不足、離島航路の維持など、さまざまな社会課題の解決につながるものとして研究が進んでいる。
今回は機関部の実証実験として、陸上支援センター(陸側)と本船側(機側)との連携や、荷役終了後の出港スタンバイから出港後まで、機関部作業を支援する内容で、陸上監視者の機関長が支援を行い、本船の航海士がマニュアルの作業手順に沿って、エンジンのスタンバイ作業を行った。



陸上支援センターで視察

はじめにBEMAC株式会社のインベション本部ITシステムグループの川崎裕之グループ長から機関部実証実験の概要として▽本船と陸上支援センター間のシステム▽実証実験における船陸間の役割分担▽実証実験時に陸上支援センターが行う作業―などに

ついて説明があった。機関部実証実験では、現在の機関長・機関士が乗船勤務する体制から、将来的に機関長が陸上、機関士が乗船中の体制で安全運航を維持することが可能かを検証するため、航海士による主機始動やトラブルが重なった場合の対応な

ど、さまざまな想定のもとで実証実験を行っている。今回の実証実験は株式会社イコーズの岩政佳和代表取締役社長が、陸上支援センターで機関部の状態を監視する中、無線電話を通じて本船の航海士と確認を取り、主機や発電機の始動が行われた。

視察での主な質問
視察では質疑応答形式で意見交換が行われた。
▽機関部を監視する動画の保存期間
▽警報が鳴動した場合の陸上支援センター側の対応
▽クラウド上の記録を本船側

今後の課題
実証実験終了後は、西畑知明国土交通省海事局海技課長から「陸上支援センターに機関長、船上に機関士を想定した実証実験の中、現在の限られた情報量を考えると、最終決定は本船側にあつて、陸上支援センターは支援にとどまるような印象を受けた。その

一方で、労働人口減少などを迎える中で、中長期的な発展と持続可能性を考慮すれば、将来的には非機関士の活用も考えられるのではないかと」の見解が示された。
また、田中伸一組合長代行が「視察を通じ実験内容を詳しく理解することができた。信頼性の高い機器開発のため、さまざまな条件での実証実験は必要で、その次の段階として、制度や法的責任のあり方をどう考えるかが重要で

ある。合理化やコスト削減から機関部職員が減員されれば安全を損なうこととなり、船上でのメンテナンスの問題やトラブル発生時の堪航性などをどう捉えるか、今後考えていかなければならない。実証実験中、船陸間通信システムが途切れることもあったが、船上の乗組員は陸上支援を受けられることは心強く、通信の安定が確保されれば大きくステージが変わると思う」との見解を示した。



視察のようす



古野電気株式会社
(本社)

船橋見学



機関制御室見学



水産高校生が 内航タンカーを見学

長崎県立長崎鶴洋高等学校

株式会社三洋海運商会「第八三洋丸」見学会



見学会でのレクチャー

7月1日、長崎市にある株式会社ナカタ・マックコーポレーション長崎工場内の岸壁で、長崎県立長崎鶴洋高等学校の船員を目指す生徒を対象に、内航タンカーに興味を持ってもらおうと、株式会社三洋海運商会の「第八三洋丸」見学会が実施された。

見学会は、午前と午後の2回に分けて実施され、午前の部には1年生42人、午後の部には2年生17人、3年生6人の23人、計65人が参加した。

見学では乗船する前に、生徒たちへのレクチャーが行われ、生徒全員が安全帽と重手を着用し、船内でケガをしないよう、頭上やステップに注意して歩くよう注意喚起が行われた。また、この機会に普段なかなか目にするこのないタンカー船の船橋（ブリック

ジ、居住区、事務室、機関室、甲板上の荷役設備などを実際に見て触れて体験することで、貴重な機会にしてほしいとの説明が行われた。

◆船橋見学

第八三洋丸の船長が航海計器の説明に加え、本船にはスライリンクが設置されているため航海中もインターネットが使用できることなどについて説明した。

◆食堂見学

司厨長が内航タンカーの供食体制について食事例の写真を使用して説明すると、生徒からはおいしそうと歓喜の声が上がった。

◆機関室見学

機関長が機関制御室で本船の主機、各機関の制御方法、燃料使用量、当直体制などについて説明した。

◆甲板上の荷役見学

荷役責任者を務める一等航海士が積荷や荷役作業について説明し、オイルハッチから船槽を見学した。荷役中は重いハンドルを操作して速やかにバルブの開閉をする必要があるなど要点説明を受けた後、バルブの開閉作業を体験した生徒は、身体と力の使い方に工夫が必要なのだと実感した体験となった。

会社からのメッセージ

見学を終えて下船後、船長が講師となり、岸壁に質問コーナーが設置されると、給料や仮バスなどについて質問が出された。

船長は、仮バスで停泊した都市やその過ごし方について説明し、また、給料についても年間臨時手当の支給実績



機関室見学



荷役設備見学



第八三洋丸



船橋(ウイング)見学

などについて説明した。引率した同校卒業生の乗組員2人から生徒たちに対し、社会人となった今感じることや乗船中に心がけていること、また、残りの学校生活の過ごし方など、後輩に向けての激励の言葉が伝えられ「卒業後に株式会社三洋海運商会でお待ちし

ています」の言葉で締めくくられた。最後に、利根武夫代表取締役社長が「タンカー船は他の内航船と比較するとルールが厳しく、マニュアルを含め勉強することが多いという点はありますが、それはすなわち、事故防止の体系が整っている

ことでもあります。ルールに従って仕事すれば事故が起こらないということです。今回の見学会でタンカーの魅力が少しでも伝わったのなら大変光栄です」と述べた。見学会の帰り際には、パンフレットが配られ、見学会を終了した。(大阪支部「発信」)



長崎港





あいさつする平岡英彦中央執行委員

6月19日、福岡市博多区のリファレンス駅東ビル貸会議室で、第15回就職支援検討委員会を開催し、船員養成教育機関の先生と九州関門地方支部管内が担当する各海運会社の担当者が出席した。

出席者の内訳は、船員養成教育機関7校から10人、海運会社30社から47人、九州運輸局海事振興部から2人、本組合から17人、合計76人が出席した。

就職支援検討委員会

会議では、はじめに主催者を代表して浅野忠行九州関門地方支部長が「この就職支援検討委員会は、将来の水産・海運業界を担う後継者を円滑に確保・育成できるよう、平成21年度に第1回を開催し、本日で15回目となる。労働

者人口の減少が進んでいるなか、海運業界でも人材育成のあり方が変化してきている。官学労使一体となり、船員職業の後継者の確保・育成が進められるよう諸課題の解決に向け意見交換を行い、理解を深めたい」とあいさつした。

続いて本組合本部を代表して、平岡英彦中央執行委員が「就職支援検討委員会は年々参加者が増え、注目を集めている。少子高齢化社会において船員の確保・育成は喫緊の課題であり、本委員会では船員教育を行う上で、最大の課題である教員不足対策などについて、活発な意見交換を行い今後の活動につなげていきたい」とあいさつした。

次に九州運輸局海事振興部から、船員労働賃金状況と運輸局の海洋教育および人材確保の取り組みが報告され、本組合が事前に船社と学校からそれぞれとりまとめたアンケート結果を報告した後、意見交換が行われた。

学校側の意見(概要)

- ▽教育の質を担保する教員をいかに確保するかが課題と考えている
- ▽雇用のミスマッチを防ぐ取り組みに力を入れている。船社には訪船による職場見学などの協力をお願いしたい
- ▽4月入社卒業生ですぐに乗船することを理由に退職している者もいるため、乗船前研修の充実を求めたい。一方、入社後の手厚い研修への感謝や一部癖の強い乗組員に苦慮するなどの意見もある
- ▽卒業生とSNSでつながっている生徒が多く、先輩の情

報に基づき就職先を選定する生徒が多く見受けられる

- ▽実習船にはボイラーなどの設備がなく実物を見る機会がない。生徒に社船実習など参加を勧めているため協力をお願いしたい
- ▽自分が望む職務と船種を思い描く学生が増加しており、それに基づき船社を選定している傾向にある
- ▽福利厚生より賃金を重視する傾向が強まっている一方で業務内容や船内環境とのバランスを考慮している生徒も増加傾向にあると感じている
- ▽乗船期間を重視する生徒が多く、私生活を含めて就職先を選定する傾向にあると感じている
- ▽希望する船種に対し、配乗の船内環境としてストーリーなどのインターネット設備

備などを意識し船社を選択する傾向が強い

船社側の意見(概要)

- ▽荷役作業は本船でのOJTとならざるを得ない。インターシップを受け入れているので参加いただきたい。会社訪問も柔軟にお受けしたい
- ▽生徒が就職先を選ぶ際のポイントと選定する時期を伺いたい
- ▽学校を訪問させていただければ、就航船舶の設備や船内環境など詳細を説明するよう対応したい
- ▽船員養成教育機関では、社会人としての心構えや諦めな心を育むとともに、安全と危険に関する知識・教育を深めてほしい
- ▽新入社員早期離職を防ぐため、船内の人間関係を考慮した配乗に注意を払っている
- ▽船員養成教育機関には、外航船や内航船だけでなくタグボートなど港湾船の魅力発信をお願いしたい。出前授業など機会があれば積極的に参加させてほしい
- ▽船員養成教育機関からの意見として挙げられている部員の採用も積極的に受け入れたい。入社後にOJTによる丁寧な教育を実施したい
- これら学校側と船社側それぞれの意見・要望・課題などについて意見交換を行い、共通理解を深め、最後に松本順一水産部長が「本委員会を通じて、引き続き官学労使が協調し産業発展にまい進したい」と締めくくり、次年度以降も本委員会を継続することを確認し、就職支援検討委員会を終了した。

九州関門地方支部 第15回 就職支援検討委員会



鹿児島県立鹿児島水産高校の九鬼功二教諭



オーシャントランス株式会社の塩田靖司船舶管理部長



あいさつする浅野忠行九州関門地方支部長

第41回 日本の海洋画展

海に生きる者の絵画展を
宮城県の石巻市博物館で開催

7月23日(木)～26日(日)



昨年の横浜で開催されたようす

第41回
日本の海洋画展

現代日本画壇の海洋画を一堂に集めて

2026

開催期間
7/23(木)～7/26(日)
9:00～17:00 (最終日16:00まで)
石巻市博物館
宮城県石巻市大湊1-1-1
TEL: 0225-88-4433

協賛
一般財団法人日本海員福祉センター
〒104-8555 東京都中央区新富1-1-1 新富ビル7F
TEL: 03-5561-3111 FAX: 03-5561-3112

主催
一般財団法人日本海員福祉センター
〒104-8555 東京都中央区新富1-1-1 新富ビル7F
TEL: 03-5561-3111 FAX: 03-5561-3112

ホームページはこちらのQRコードから
URL: <https://www.jsd1.jp>

2026年7月15日

中央選挙委員会 議長 齋藤 洋

第40期全国委員の当選告示

一、2026年7月5日付で告示した第40期全国委員補充選挙については、立候補の受け付けを締め切り、立候補者の資格審査を行い、候補者が適格であることを確認した。

対立候補者がいない立候補状況であることから、全国委員選挙規則第25条D項により投票を略し、当選人を次の通りとする。

《地方区・地方単位》
01 北海道 (補充定員1名・立候補者1名)
当選人 遠藤 飾 北海道地方支部長兼道南支部長

以上

安全衛生講習会



6月20日、新日本フェリー小樽ターミナル3階のマルチホールで、令和8年小樽地区漁船組合員大会と安全衛生講習会を開催し、現場組合員29人が出席した。

安全衛生講習会

はじめに船員災害防止協会北海道支部・小樽地区支部主催の安全衛生講習会を実施し、心肺蘇生法(AED使用)の実技講習を行い、理解を深めた。

小樽地区漁船組合員大会

安全衛生講習会を終えた後、小樽地区漁船組合員大会を開催し、遠藤節北海道地方支部長と高橋健一中央執行委員があいさつを述べた後、来賓の伊藤保夫小樽機械船漁業協同組合代表理事組合長から、無事に操業を終えたことへの謝辞と、組合員大会への祝辞が述べられた。また、今期の操業回数、漁獲量、平均単価および総水揚げに関する報告と来期の操業体制について船主会の考えが述べられた。

小樽地区漁船組合員大会では、池上幸太北海道地方支部副支部長から、支部活動の概要と道内の沖合底引き網漁船の現状、小樽地区沖合底引き網漁船における取り組みなどについて報告を行った。

その後、水産部門の活動方針と令和8年度労働協約改定交渉の進捗状況などを報告し、現場組合員からは▽休漁中の賃金について▽生産奨励金についてなどの質問があり、執行部との質疑応答で理解を深め、組合員大会を終了した。

北海道地方支部

小樽地区
漁船組合員大会

安全衛生講習会で心肺蘇生法(AED)を学ぶ

小樽地区漁船組合員大会のようす

海員スポーツイベント
小樽地区
漁船ボウリング大会

組合員と家族、46人が参加

6月20日、ウイングベイ小樽のオタルボウルで、小樽沖底船主会・沖底船各社協力のもと、16回目となる小樽地区漁船ボウリング大会を開催し、現場組合員と家族を合わせ、計46人が参加した。

はじめに、池上幸太北海道地方支部副支部長が「ケガに注意して楽しんでほしい」とあいさつし、集合写真を撮影した。ゲームが始まると、各レーンで歓声が響き渡る、熱い戦いが繰り広げられた。

白熱したゲームを展開した結果、優勝は第57三光丸の遠藤廉さん、準優勝は新世丸の嶋田巧海さん、3位は第81桂丸の岸本彬輝さんとなり、賞品や参加賞を配り、参加者全員が笑顔でボウリング大会を終えた。

《北海道地方支部刊発行》



7月3日、広島市中区のラウンドワン広島店で「海の日」を記念する月間行事「海員スポーツイベントボウリング大会」を開催し、会社、現場組合員とその家族など、総勢19人が参加した。

はじめに開会式では、除補修中・四国地方支部長が主催者代表あいさつをした後、ルール説明が行われ、ゲームがスタートした。

ゲームは、大人から子どもまで幅広い参加者が、各人2ゲームを行い、トータルスコアで順位を争った。大きな声で喜ぶ人やハイタッチをする人など、和やかな雰囲気職場間を越えた交流をしながらボウリングを楽しむ姿が見られた。

ゲームの結果、優勝は宮島松大汽船の今野侑平さん、2位は安芸津フェリーの山崎真也さん、3位は日本海事業業の村瀬慎一さんとなった。

ゲーム終了後に表彰式を行い、入賞した3人を参加者全員が拍手でたたえた。最後に公益財団法人中国海事広報協会の板敷剛事務局長が閉会のあいさつをし、大会は無事終了した。

中・四国地方支部

海員スポーツイベント
ボウリング大会